

令和7年度
鹿角市総合教育会議

会 議 録

令和7年11月27日

鹿 角 市
鹿角市教育委員会

令和7年度鹿角市総合教育会議を令和7年11月27日午前10時から鹿角市役所第1・2会議室にて開催した。

1. 出席した者の氏名は、次のとおりである。

市長 笹本真司
教育長 阿部義弘
教育委員 田中喜昭
教育委員 和田学
教育委員 吉田孝子

2. 事務局職員として出席した者の氏名は、次のとおりである。

総務部

総務部次長兼政策企画課長 成田 匡
同 政策監兼総合戦略室長 成田 仁文

教育委員会

教育部長 黒澤 香澄
大湯ストーンサークル館長 花 海 義人
総務学事課長 似 鳥 映
総務学事課学事指導管理監 駒ヶ嶺 充
生涯学習課長 黒澤 香澄
スポーツ振興課長 古 田 渡
スポーツ振興課政策監 田 原 智明
総務学事課主幹兼学事指導班長 田 村 めぐみ
同 学事指導班指導主事 米 田 樹史
生涯学習課主幹兼社会教育班長 村 木 芳
同 主幹兼文化財振興班長 鎌 田 学
同 文化の杜交流館長 成 田 小百合
大湯ストーンサークル館副主幹 鈴 木 和明
総務学事課主幹兼総務班長 大 森 美佳子

3. 協議事項

- (1) 第7次鹿角市総合計画基本構想(案)について
- (2) 鹿角市教育大綱(案)について
- (3) 重点的に講ずべき施策について
 - ・第2次鹿角市学校教育振興基本計画の改訂(案)について
 - ・第9次鹿角市社会教育行政中期計画(骨子案)について
 - ・第4次鹿角市スポーツ推進計画(骨子案)について

4. 傍聴人数 3人

5. 会議の概要は次のとおりである。

総務学事課主幹兼総務班長	<p>皆様お揃いですので、ただいまから「令和7年度 鹿角市総合教育会議」を開会いたします。</p> <p>開会にあたりまして笹本市長よりご挨拶申し上げます。</p>
笹本市長	<p>皆さんおはようございます。本日はご多用のところご出席いただきまして誠にありがとうございます。皆様には日頃から教育行政の推進はもとより、市政の各般にわたりましてご理解ご協力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。</p> <p>さて、この総合教育会議でありますけれども、市長部局と教育委員会が十分に意思疎通を図って地域の教育課題や教育の目指すべき姿を共有しながら、様々な協議、調整を行うことを目的としております。</p> <p>今年度は第7次鹿角市総合計画前期基本計画の最終年であり、現在次期計画の策定作業を進めております。引き続き、将来都市像、ふるさとを誇り、未来を拓くまちの実現を見据え、人口構造の若返りと持続可能な地域社会の形成を目指してまいりたいと考えております。教育分野におきましては、学校や家庭、地域が連携して子どもたちを育み特色ある教育活動を展開するとともに、ふるさとに誇りや愛着を持ちながら、鹿角市を担う人材を育成していくことが、地域の持続可能な発展のために繋がるものと考えております。</p> <p>教育委員の皆様には更なる教育施策の充実のため、一層お力添えを賜りますようお願い申し上げます。この後、総合計画基本構想案や教育大綱案などについて説明させていただきますので、皆様には忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくようお願い申し上げます。</p>
総務学事課主幹兼総務班長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして阿部教育長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
阿部教育長	<p>はい。改めましておはようございます。市長に引き続きでございますけれども、挨拶させていただきます。考えてみましたら、教育委員会会議においては、私の挨拶のコーナーはございませんので、せっかくの機会ですので、この場をお借りして、日ごろからの教育行政のお力添えに対しまして感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>ただいま市長の挨拶の中でもありましたように、今年度の総合教育会議のテーマは、総合計画の基本構想と教育大綱についてであります。皆様ご承知のように、総合教育会議は10年前の平成27年7月の新教育委員会制度の施行により導入されました。市長と教育委員会が教育行政の大綱や重点的に講ずべき施策等について協議し、調整することにより、市長部局と教育委員会の連携がより一層深められることが、その狙いの一つでございます。また、この新教育委員会制度の施行により、重大ないじめ事案など児童生徒の生命を脅かす事態が発生した場合等においても、首長の判断により総合教育会議を開き、講ずべき措置について教育委員会と協議調整を行うことも可能となりました。</p> <p>委員の皆様ご承知のとおりでございますけれども、本日は笹本市長のもとで行われる初めての会議ということで、私達教育委員会事務局職員のためにも、再確認させていただきました。改めまして本日はよろしくようお願いいたします。</p>
総務学事課主幹兼総務班長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは協議に入りますが、会議の進行は笹本市長をお願いいたします。</p>
笹本市長	<p>はい。それでは、協議に入らせていただきます。</p> <p>次第の4. 協議事項の(1)第7次鹿角市総合計画基本構想(案)について、事務局より説明をお願いします。</p>

政策企画課政
策監兼総合戦
略室長

はい。政策企画課総合戦略室長の成田です。よろしく願いいたします。説明は座ってさせていただきます。

それでは資料1をお願いします。令和8年度からスタートする後期基本計画の策定にあたり、昨年度より基本構想の点検を進めてまいりました。見直しに際しましては、「かづの未来会議」や「かづの未来の若者会議」、さらには若者アンケートなどからいただいたご意見を踏まえ、検証を行っております。

2ページをお願いします。お手元の資料は、左側に現行の記載内容、中央に見直し案、右側に考察欄を配置しています。見直し案では、修正箇所を赤字で示しています。また、右側の考察欄には、見直しに至った理由や背景を整理しています。全体の見直しの方向性ですが、前期基本計画期間中に生じた、特に若者の流出の加速化に伴う人口減少、デジタル化や脱炭素といった社会の変革に対応しております。

3ページをお願いします。続きまして、第3章「鹿角市を取り巻く社会情勢」についてご説明いたします。この章では、統計調査や将来推計の数値を最新のものに更新するとともに、近年の社会情勢の変革への対応や文言の修正を行っております。右側の考察欄の記載につきましては、整理の主体を分けて表記しています。黒字は庁内での整理内容、青字は「かづの未来会議」でいただいた意見、後ほど出てきますが、緑色は「かづの未来の若者会議」でいただいた提案を反映したものです。

4ページをお願いします。中段の部分では、まず「定住人口については、人口構造の若返りを図るため、若者世代の活力が発揮されるまちづくりが必要」と整理しております。加えて、「関係人口を新たな人口の捉え方として位置づけ、1人に換算できなくとも0.5人や0.2人といった形で評価し、拡大を図っていきたい」という思いも込めております。このように、定住人口の確保とともに、関係人口の拡大も鹿角市の将来を支える重要な視点として位置づけております。

5ページをお願いします。まず、3の「未来技術の進展」についてですが、デジタル化の進展が非常に速いため、記載内容を現状に合わせて見直しております。次に、4の「国際化の新たな局面の到来」については、6ページにかけて整理しております。この5ページでは、外国人労働者が増加している状況を取り上げ、6ページではDMOを中心としたインバウンド対応の必要性に触れております。また、6ページの下段では、安全安心を脅かすリスクの増大について、クマをはじめとした鳥獣被害への対応についても記載を加えております。

7ページをお願いします。6の「経済のグリーン化」については、市が現在取り組んでおります「脱炭素社会の実現」へと表現を改めております。続いて、7の「社会の成熟化に伴う価値観の多様化」についてです。ここでは、従来のSDGsに加えて、「ウェルビーイング」を実感できる社会の実現が、世界的にも、また国においても求められていることを記載しております。

少し飛びまして、10ページをお願いします。こちらのページでは、第4章「まちづくりの将来像」を記載しております。この章では、若者に選ばれる地域づくりが求められていることを明確に示すとともに、さらにウェルビーイングを実感できるまちづくりを進めていくことを新たに盛り込んでおります。

12ページをお願いします。第5章「まちづくりの戦略・取組方針」を記載しております。前期基本計画と同様、将来都市像の実現に向けて、「暮らしを守る5つの基本戦略」を定めております。加えて、本市の独自性を高め、持続可能なまちの確立に向けた行財政基盤の更なる強化など、3つの戦略を「都市経営の視点で攻める3つの経営戦略」と

定めております。このように、「守り」と「攻め」の両輪で取り組むことで、鹿角市の自立した持続可能なまちづくりを推進してまいります。

13ページをお願いします。ここからは、8つのまちづくり戦略に関する部分になります。基本戦略1についてです。地域産業の成長を支援するという従来の方向性は維持しつつ、新たに、若年層、とりわけ女性の「働く環境の充実」に取り組むことを盛り込んでおります。

14ページをお願いします。「鹿角市子ども計画」の内容に合わせ、妊娠・出産・子育ての総合的な支援、子どもの居場所づくりの推進を整理しています。併せて、結婚支援をこれまで以上に強化する方向で見直しています。

17ページをお願いします。こちらは、基本戦略5に関する部分です。鹿角の未来を担う人材を育成する観点から、高校教育との連携を図りつつ、地域全体で魅力ある学びの場づくりを進めることを記載しております。また、右側の考察欄に緑色で示している内容は、中高生からなる「かづの未来の若者会議」でいただいた提案を反映したものです。具体的には、「学べる選択肢がもっとあれば将来の夢につながる」との意見を受け、大学や専門教育の場を広げたり、地域と関わりながら学べる機会を充実させることが提案されました。

18ページをお願いします。ここでは、経営戦略1について記載しています。経営戦略名を「まちに若者と活力を呼びこむ」へと改めます。新たに「若者が活躍できるまちづくり」に取り組むこととし、若者の居場所づくりや高校の魅力化を進めてまいります。引き続き、スキーと駅伝のまちとして交流人口の拡大を図るとともに、スポーツ資源を活用して消費拡大を図っていきます。

19ページをお願いします。本市の世界レベルの文化財は4件となり、「世界遺産のまち」として全国、さらには世界に認められる地域づくりに向け、大きな弾みがついております。今後は、「つくる」段階から「活かす」段階へと発展させることとし、経営戦略名を「世界遺産のまちを活かす」へと改めました。文化財に関しては、「鹿角地域文化財保存活用地域計画」の策定にあわせ、これまでの「保存」から「保存・活用」へとステップアップしております。さらに、世界遺産登録の効果をまちの活力につなげるため、観光振興と地域経済の発展に直結する取り組みを進めていく必要があります。未来会議からも「行政の独りよがりになり、地域経済に結び付いていない」との指摘があったことを真摯に受け止め、文化財と観光、産業をつなぐ具体的な仕組みづくりを強化してまいります。

続いて、資料2をお願いします。こちらは、先ほど資料1でご説明しました方向性を、後期計画の体系図として整理したものです。前期基本計画から変更になった箇所については赤字で示しています。教育分野以外の変更点としては、まず、基本戦略1の取組方針2についてです。基本戦略1の取組方針2に新たに「働く環境の充実に取り組みます」を追加しました。本市では、若年層、とりわけ女性の都市部への流出が課題であり、その背景には、雇用の業種・職種の偏り、登用機会の不足、男女間賃金格差などがあります。一方で、若年世代では「共働き・共育て」が前提となるなど意識が変化しており、こうした意識と地域の職場環境とのギャップが転出要因となっています。このため、誰もが働きやすい環境整備や就労支援の拡大、若者・女性の挑戦支援、さらに農林業の担い手育成・定着に取り組んでまいります。

取組方針19では、学校だけで完結するのではなく、地域と協働して学びをつくることが一層重要になることから、取組方針名を「地域の特色ある」から「地域と連携した」

	<p>に変更しています。次に、右側の赤い部分「都市経営の視点で攻める3つの経営戦略」です。ここでは、新たに「若者が活躍できるまちをつくります」という取組を掲げております。若者アンケートでは、多くの若者が地域に閉塞感を抱き、「市政に若者の声が反映されていない」と感じている一方で、自ら意見を発信することにはためらいがある実態が明らかになりました。また、地域の重要な教育資源である鹿角高校は、少子化や進路の多様化により定員割れが続き、今後の入学者減少が懸念されています。このため、若者の交流・活躍の場の創出や地域と連携した高校の魅力づくりに取り組むこととしています。</p> <p>取組方針23では、「農畜産物の魅力と競争力を高めます」に取り組みます。ブランド農畜産品や産地作物の生産拡大を進めるとともに、スマート農業の導入により経営革新を加速させます。</p> <p>取組方針26「ゼロカーボンシティの実現に取り組みます」についてです。重要性の高まりを踏まえ、新たに独立した取組方針として位置づけました。</p> <p>次に、経営戦略2「世界遺産のまちを活かす」についてです。取組方針28では、世界遺産と地域資源を融合させ、訪れる人々の「感動」を最大限に引き出し、持続可能な観光地域の創出を進めてまいります。</p> <p>最後に、経営戦略3、取組方針30「デジタルと対話でつながる市政を進めます」では、デジタル技術を活用した行政サービスの推進と、政策データの可視化・発信力の強化に取り組んでまいります。以上が、第7次総合計画基本構想の方向性となります。説明は以上となります。</p>
笹本市長	説明が終わりました。ただいまの説明について、委員の皆様からご意見ご質問等がございましたらご発言をお願いいたします。はい、どうぞ。
田中教育委員	はい。ただいまの説明の資料2の19番のところで、「地域と連携した特色ある教育活動を実施し」という部分、これは大事な視点だと思います。これからの地域の子もたちの健やかな成長を願うときに、様々な社会活動と学校教育と、それから家庭教育が連携するという意味合いを太くしたものかなというふうに考えておりました、大変素晴らしい視点だと思いますが、この19番のところは、地域と連携した形にしていますが、前まではどういう文言がここに入っていたんですかね。
総務学事課長	今は赤字で「地域と連携した」となっていますが、現行の計画では、「地域の特色ある」としていました。ちょっと曖昧なところもあるのかなと思ったので、委員がおっしゃられた、より地域ですとか、家庭ですとか、そういった地域の特色を生かした鹿角市の特色ある教育を進めたいということで、今回「地域と連携した」というふうな表現に改めております。
田中教育委員	大変素晴らしいなと思っています。連携することの大切さがとても強調されていて、このことが、元々あったものを強固にしていくものだと思うんですが、ここを教育と考えた場合、子どもたちを育てるという教育活動になるわけなんでしょうけれども、具体的には新しいことなど、どのようなものをイメージされていらっしゃるのでしょうか。何か具体的なプランはありますか。
総務学事課主幹兼学事指導班長	総務学事課田村です。こちらの事業については、新たなものというよりはこれまで前期計画からの「ふるさとかづの絆プラン事業」の学校同士の連携ですとか、あとは学校の裁量でいろんな事業を展開していただいている「特色ある学校づくり推進事業」ということで、講師を呼んで伝統芸能ですとか農作物の栽培ですとか、そういった事業を継続して後期も実施することを計画しております。

田中教育委員	<p>ぜひ、学校フィールドの中での地域の力を活用するという視点というか、家庭や社会のフィールドでの学校も含めた連携という視点も重きを置いていただきたいなと思っております、ここで言うべきかちょっと迷うところなんです、かなり前の話になりますけども、鹿角市が公民館から市民センターに変わる一番最初に、私が教育委員に就任させていただいて一番最初の会議がその承認でした。公民館が市民センターに変わるよと、ただ基本的には公民館と市民センターが一緒になるよというようなことを協議した会議だったんですけれども、その時に心配したのは、市民センターになって変わるんじゃないかなと思ったのが、社会教育の場だったんです。ですので、今回ここで改めて地域と連携をするということですので、フィールドを学校だけじゃなくて、様々な地域の場や家庭の力も借りたりして協力するというところの具体的なプランも、ぜひとも強化していただければありがたいなと思っておりますので、最後に意見も述べさせていただきますけども、何とか骨太のプランを作っていただければありがたいと思っております。</p>
笹本市長	<p>部長、どうぞ。</p>
教育部長	<p>そういった意味では、まず地域で子どもたちを育てようという事業の一つにふるさとキャリア教育を実施したと思っております。地域の企業とかお店、そういったところで子どもたちが職場体験をすることによって、子どもたちが地域を知るという場にもなっておりますし、逆に受け入れた事業者たちが子どもたちを見守るという、子どもたちを気にかけるという土壌が育てばいいなという思いで始めた事業だと思っておりますので、そちらの方も強化していきたいと思っております。併せて、やはりおっしゃられた家庭教育なども、やはり一番大切だと思っている分野ですので、今後については力を入れていくべきことだなと考えております。</p>
笹本市長	<p>はい、教育長。</p>
阿部教育長	<p>ご紹介になりますけれども、田中委員さんも重々ご承知だと思いますが、花輪中学校さんの方でずっと30年ぐらい合唱をメインでやってきたんですが、校長先生たち、ここ数年間でやはり、このふるさとキャリア教育という面で時間を取っている、そちらの方にも重点を置きたいなということで、今、花輪中学校の文化祭も変わってきているし、ふるさとキャリア教育も変わってきています。その中で、地域人材を十分に活用していて、セクションセクションに関わる人材の方々も増えていきますので、そういった活動を学校教育、学校経営研究会等の場で、校長先生の方からご提示いただくなど、学校の校長先生たちもそういった意識を強くしているところですので、今後この計画の連携ということを意識したところが、ますます強まっていくと思っておりますので、教育委員会はそうした活動を支援していくというスタンスになろうかと思っております。</p>
笹本市長	<p>ほかにございませんか。和田委員、どうぞ。</p>
和田教育委員	<p>はい。資料2の24番なんですがスポーツの力でまちの魅力を高めますとあります。これ以前から続いていることで、鹿角市は特にスキーと駅伝ということで取り組んでいるところですが、これによって交流人口の拡大、冬になるとスキーでまちが潤うということもありますので、それはそれで大事なんですが肝心要の市内の子どもたちがスポーツに取り組むというのが、子どもの数がどうしても少なくなっている分、できる種類に限られてるというのが非常に問題だなと思っております、できれば子どもたちには様々なスポーツにいろいろ触れてもらって、自分が何に向いてるのかという、最終的に何を頑張るかというのは、小学校で頑張ったり中学校で頑張ったり、引き続き高校、社会人で、将来的に続けられるスポーツに巡り会えればいいなというふうに思っているんですが、</p>

	<p>触れる機会が少ないというのが非常にもったいないなと思っております、先ほど田中委員が地域と連携ということをおっしゃられました、スポーツに関しても学校で扱っていないスポーツを地域でやってる方も結構いらっしゃると思います。そういった人たちも発掘といたしますか、スポーツ協会ですとか市の方にスポーツの団体として登録している団体も多数あると思いますので、そういったところとも連携して、子どもたちに経験の場というんですかね、そういったものが開かれるような何かをしていけばいいのかなというふうに思っておりますが、こういったことは可能なのかどうかということをちょっと検討していただければと思いますので、よろしく申し上げます。</p>
スポーツ振興課政策監	<p>はい。今現在ですと、総合型スポーツクラブもありますけれども、そちらの方でも子どもさんから大人まで、一緒に活動をしたり、行事を取材していただいたり、あと市民センターの方でも、子どもさんから大人まで参加できるような事業を進めておりますので、スポーツ振興課とは別のところでもそういった活動も行っております。ただ、やはり委員おっしゃられますとおり、各種スポーツいろいろあるわけですが、今まで限られたスポーツしかやってきていない。部活動なり小学校からの継続した活動というものが限られたスポーツになっておりますので、そういった点やはり、鹿角市のスポーツ協会、それから加盟団体等とも連携をしながら進めていきたいと思っております。</p>
和田教育委員	<p>はい。市内にある様々な団体も、やはり競技人口を増やしたいといいますが、仲間を増やしたいという思いで活動も当然してると思いますが、発信方法とか、そういったものがわからなくてうまくできてない団体もあると思います。もちろん、その団体それぞれが主体的に動いていただくことになると思いますが、そのときにサポートできること、市の方で支えとなるような何か持っていただければ、スポーツに限らず、生涯学習という意味でも勉強会のような、講座とかもいろんな趣味の集まりになると思うんですが、そういったものがもっともっと広がっていけば、鹿角市で生活する魅力というものが高まっていくと思っておりますので、そういったことを市の方でも少し支えていただくことを検討していただければと思います。</p>
阿部教育長	<p>私の方からご紹介させていただきます。委員ご指摘のように、皆さん自分の競技団体の人を増やしたいなという思いがあるわけですが、スポーツ協会の執行部の方々と一緒にお話されてるんですが、その場においても自分の興味を取り込むというような動きではなくて、委員おっしゃるように、広く親しむ場を提供して、その中から自分にあった競技を見つけていくということに向けた仕組み作りということが大切かなと思います。理念だけが先行しても、思いはあるけれども進まないということがありますので、そういったことを具体的に進めやすくするような仕組み作りについて、スポーツ協会等々意見を交換しながらやっていくと。市が主導で仕組みを作るんじゃなくて、合わせて作っていくというようなことを市長と競技団体の執行部の方々とお話されたようです。</p>
笹本市長	<p>私からもいいですか。今の和田委員の考えに賛同するところがありますが、ただ、進めるにあたって、EBPMというか結局こうした方がいいみたいなホワソとしたものじゃなくて、学術的に、今欧米なんかだと、本当に小さい頃から追跡調査されていて、例えば、小さい頃からいろいろなスポーツに触れた人間と、一つのことだけをずっとやってた人間、将来においてどのような違いが見られるか教育経済学とかいろいろあると思うんですが、そういった見地から、単にいろいろ触れ合ったら良さそうだなっていうのは感覚的にはわかるんですが、それにプラスしてしっかりとした根拠で、今も学術的にいろいろわかってる部分もあると思うので、そういったところから体験的</p>

	<p>に何か皆さんにおいて様々なスポーツに、例えば小学生のうちはいろいろ触れ合うことが将来においてこういうメリットがあることがわかっているというような視点も欲しいなというふうに思います。そうじゃないとやっぱり皆さん1人1人、感性の問題にならないように、ちゃんとそういう証明がされているという観点や、説得力とか、いろいろ巻き込んでいく中では取り入れてほしいなというふうに思っております。</p> <p>はい、吉田委員。</p>
吉田教育委員	<p>はい。一部見直し案の中にも、ウェルビーイングという言葉が何度か出ておりますが、近年注目されていることでもありますけれども、個人的には、その人の持つ幸せの価値観はそれぞれですし、自己実現と成長だったり己の持つ性格にもよるところはあるので、様々な研究過程とかではあると思うんですけれども、地域と繋がっているかどうかによって幸せを感じることもあるというような研究があるというのも以前読んだことがありますので、地域との繋がりであったり、地域に感謝することも一つの幸せの因子なんだとしたら、中学校で行われている観光ボランティアを中学校で終わらせることなく、高校に繋げることはできないかなというように思いもありますし、今年とか過去にもいろんな要因で中止になっても、各学校で工夫をして子どもたちに発表する場が設けられていると聞いておりますので、そこを鹿角市の歴史だったり、世界遺産もそうですが、観光を強みにするところに子どもたちを絡めていけないかなというように思いもあります。それが鹿角高校の魅力の一つにならないかなというふうな思いもありますので、実際、観光ボランティアを続けていただいていることをブラッシュアップしながら、引き続き連携していただけたらなという思いがあります。</p>
総務学事課長	<p>私の方から答えられる範囲で。実際に中学校では、八幡平であれば大沼後生掛のボランティアと、尾去沢は史跡尾去沢鉦山のボランティアガイドがあります。今年は、熊の関係で八幡平は中止になったりしたんですけど、学校の方でそれを発表する機会を設けております。やっぱりそういった取り組み、地域の資源に実際に触れて、案内したりという体験は、子どもたちの心の中にも残っているかと思っておりますので、それをさらにその上の高校生でもというご提案だと思います。来年度、その高校の魅力ある取り組みについて、実際に関係者と協議しながら進めていくこととなりますので、その際に、どういったことができるのか、地域の特色を生かした取り組みの一つという位置づけにもなるかと思っておりますので、そういった部分は教育委員会または市長部局の方とも相談しながら、一番は、ふるさとに愛着を持って、誇りを持って繋がりを持つということが肝になるかと思っておりますので、教育委員会としても意識して取り組みを検討していきたいと思っております。</p>
笹本市長	<p>はい、吉田委員。</p>
吉田教育委員	<p>はい。もう一つ。そうした際には、その観光資源であったり、祭りも含めてですけれども様々な団体があると思います。取り組まれている団体から、ぜひ正しく教えていただくというか、子どもたちの思い込みとか、変化というか正しく教えていただく場も大事だなというふうに思うので、各団体の方の力を借りることで、そのお祭りであったり、地域の取り組みが盛り上がることに繋がればいいなと思っておりますので、その繋ぐ役目もぜひ市の方で行っていただけたらなというふうに思います。</p>
笹本市長	<p>それでは、今正しくない状況がどんな状況で、正しい状況がどんな状況かもう少しわかりやすくお願いします。</p>
吉田教育委員	<p>例えば、町踊りに関しても、町踊り保存会では伝統的に教えていただいているものを継承できていますが、口伝えで来ているものもありますので、友達に還元したときに独</p>

	<p>自の変化が見られることもあるんですね。そうするとせっかく学校で取り組んでいるのに、変化したまま覚えていくよりは、取り組んでいる団体から聞いて覚えた方がより浸透するのではないかなという思いがありましてそういう表現をしました。正しい正しくないではないんですけども。</p>
笹本市長	<p>無秩序な変化ということよりは、しっかりと保存継承しているところからの習得の方が好ましいのではないかなというような意味合いですよ。</p>
阿部教育長	<p>はい。高校のふるさとキャリア教育についての取り組みについては、統合前の十和田高校さんの鹿角学というのを、広範に渡ったふるさと研究の流れを、鹿角高校さんの方でも引き継いでいて、それぞれグループ研究をした発表の場とか設けられているようです。また、未来創造コース、家庭科の皆さんが全国準優勝級の受賞をされるということに繋がって、そのときにも研究会の方とかが関わってくださって、きちとした形で指導してくださって、それに繋がったというふうに理解しております。鹿角市教育委員会としても、もし鹿角高校さんの方に、市教委として支援ができるとしたらば、おっしゃるとおりいわゆる人材を繋ぐというコーディネート的な役割が最もしやすいのではないかなということ、以前から話をしております。小中学校のコーディネートも多くなっているし、あとは職場との繋がり、コーディネートについても、市の教育センターが担っておりますのでその機能を高校にまで拡張できないかということも含めて模索しているところです。そういったことを通じて、委員がおっしゃるように、しかるべき団体の方がしかるべき指導をしてくださるという場を提供することに繋がっていただければいいかなというふうに考えております。</p>
笹本市長	<p>私から、ウェルビーイングに関してですけども、私も7年半前に鹿角に来て、狭いコミュニティがゆえに、噂話とか陰で悪口があったりとか、今でもいろんなところに行ったときにそういう話があるんですけど、何て言うかウェルビーイングじゃないかと単純に思うんですよ。ある程度狭いコミュニティなのではない部分もあるかもしれないんですけど、そういった部分もコミュニケーションとかの取り方自体が、閉塞的な部分とか、内向きなところとかいろいろあると思うので、皆さんも暮らしていて、こういうところはこうだったらいいなと思うところあると思うんですけども、ぜひ将来の世代において、気持ちよく暮らせるようなコミュニケーションなり、人々の心の持ち方みたいところを、現状もしっかり見つつ、考えていただければいいかなというふうに思います。</p> <p>他にございませんか。</p> <p>それでは他にないようですので、次に（2）鹿角市教育大綱（案）について協議いたします。事務局より説明をお願いします。</p>
黒澤教育部長	<p>それでは、資料3をお願いいたします。鹿角市教育大綱（案）についてご説明させていただきます。</p> <p>教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成27年度から地方公共団体の長に策定が義務付けられており、法律第1条の3の規定に基づきまして、この会議において、鹿角市の教育に関する大綱を策定していただくものです。現在の大綱の対象期間は、令和3年度から5年間の令和7年度までとなっているため見直しを行うものでありますが、市の第7次総合計画及び教育施策に関する各種計画についても今年度が見直しや策定の年となっているため、あわせて見直しを行うものであります。大綱の構成でございますが、本文に入ります前に、策定の趣旨、策定の基本的な考え方、期間をうたっております。</p>

1. 策定の趣旨でございますが、教育基本法第17条第1項の規定に基づき、政府が策定する教育の振興に関する施策についての基本的な方針を参酌し、地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものとしております。

2. 策定の基本的な考え方についてであります。第7次鹿角市総合計画を最上位計画とし、教育委員会が策定する鹿角市学校教育振興基本計画、鹿角市社会教育行政中期計画、鹿角市スポーツ推進計画との整合性を図り、教育大綱を定めることといたします。

3. 期間につきましては、これまでと同様に、令和8年度から12年度までの5年間といたします。なお、この期間内においても、必要性が生じた場合には随時見直しをしていくことといたします。

次のページをお願いいたします。基本理念につきましては、第7次総合計画の将来都市像を踏襲し、「ふるさとを誇り未来を拓くまち」とし、これを補完する理念を「鹿角の未来をつくる教育の推進」といたします。現在の大綱では、「鹿角の未来を拓く」としてありますが、国の教育施策の基本方針に掲げられている「持続可能な社会の創り手の育成」を踏まえつつ、今後進めていく教育施策が将来の持続可能な発展に、より一層寄与していくことを目指し、「拓く」を「つくる」に変更し、「鹿角の未来をつくる教育の推進」といたします。

基本目標につきましては、これまでの目標を継承しつつ、目標とする市民像を明確にするため、「郷土を愛し その発展に尽くす 心豊かで たくましい 市民を育む教育を進める」といたします。

基本方針につきましては、鹿角市の教育を構成する4項目とし、それぞれの項目についての主旨をご説明いたします。

I. 「学校教育の充実」については、基本理念と基本目標を踏まえ、学校教育を通じて、未来に向けて、持続可能なまちづくりの担い手となり、ともに本市の未来をつくっていかこうとする志をもった人材の育成を目指します。そのために、子どもたち一人一人の資質や能力を伸ばすことによって、将来予測が困難で変化が激しい現代社会を生き抜いていくことができる豊かな心と健やかな体を育むとともに、ふるさと鹿角に誇りと愛着を持って、持続可能なまちづくりを支え、自分の未来を切り拓いていくことのできる、志の高い人材を育てていくための学校教育の充実を図ります。

II. 「生涯学習の推進」につきましては、人生100年時代といわれる現代では、生涯学習を通じ、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、学び続けることが必要だと言われております。地域社会の構成員である市民すべてが、共に学び、支いあえる場づくりを進めることで、主体的に行動できる人づくりにつなげ、持続可能な地域づくりを推進することができるよう、「生涯にわたって、いつでも、どこでも、だれでも」学習できる機会の充実を図ります。

III. 「スポーツの推進」については、子どもから大人まで一人ひとりが生涯を通じてスポーツに親しみ、心身ともに生き活きと自分らしく暮らしていくことは、市民にとって不変の願いです。人口が減少する地域社会にあっても、スポーツを楽しめる環境や特長のある資源を生かし、一緒にスポーツを楽しむ仲間や、イベントを支える団体などのほか、市外の地域と連携により、新たな出逢いが生まれること。そして、スポーツイベントなどの開催により、滞留人口が増加し、外貨獲得による市民の経済活動と連動する営みとなっていくことなど、スポーツの力を切り口として、地域の魅力や新たな展開へと「つながる」ことで活力に満ちた地域社会が広がっていく姿を目指すものです。

	<p>IV. 「文化芸術の振興」については、郷土の歴史、伝統、文化などは、それ自体が価値をもつだけでなく、郷土への誇りや愛着を深めます。また、それらは人と人を結びつけ、協働し共生する社会の基盤となり、豊かな心を育みます。ふるさとを、心豊かで活気のある地域社会とするため、世界文化遺産の「大湯環状列石」や、ユネスコ無形文化遺産の「大日堂舞楽」、「花輪祭の屋台行事」、「毛馬内の盆踊」をはじめとした歴史・伝統・文化などの地域資源の保存・活用を推進するとともに、文化活動を創造する人材育成をより一層強化し、地域の特色を生かした文化芸術の振興を図ります。以上、簡単ではございますが、鹿角市教育大綱（案）の説明とさせていただきます。ご協議のほどよろしくお願いいたします。</p>
<p>笹本市長</p>	<p>説明が終わりました。ただいまの説明について、委員の皆様からご意見ご質問等がございましたらご発言をお願いいたします。</p> <p>よろしいですか。では、これについては、ないということよろしいですか。</p> <p>ないようですので、令和8年度から5年間を期間とする鹿角市教育大綱は、お手元の教育大綱（案）を大綱として位置付けることに決定いたします。</p> <p>次に（3）重点的に講ずべき施策について協議いたします。</p> <p>先ほどの説明にもありましたように、今年度は、教育に関する各種計画についても見直しや策定作業を進めておりますが、概要版をお示ししますので、これらの計画について意見交換をしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>はじめに、第2次鹿角市学校教育振興基本計画の改訂（案）について、事務局より概要の説明をお願いします。</p>
<p>総務学事課長</p>	<p>はい。私のほうから「第2次鹿角市学校教育振興基本計画」の改訂案についてご説明いたします。</p> <p>資料4をお願いします。第2次鹿角市学校教育振興基本計画の改訂案の概要として、目指す姿、目標、施策の基本方針、施策の柱、主な取り組みを体系的に整理しております。「第2次鹿角市学校教育振興基本計画」は、令和3年度から令和12年度までの10年間の計画で策定しており、今年度で前半の5年が経過し、来年度から後半の5年となりますので、今回、計画の中間見直しを行い、必要な改訂を行うものです。学校教育振興基本計画は、10年間を見据えて、目指すべき姿や目標を掲げておりますので、こうした目指すべきところについては変えることなく、社会環境の変化などに対応するための取り組みを加えながら、学校教育の振興を図っていくものです。このため、10年間の計画の柱である、資料の左側から記載しております『目指す姿』と『目標』については、来年度以降も引き継ぎつつ、3つの目標の達成のために取り組む9つの施策の基本方針についても、引き継いでいくものとしております。そのうえで、資料の中ほどに記載しております「施策の柱」については、今回の中間見直しにより、必要な改訂を行っております。</p> <p>「施策の柱」の中で、赤字で記載しているところが、今回、変更する部分となります。</p> <p>基本方針1の施策の柱の②について、学習指導要領の趣旨などを踏まえ、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に改めております。</p> <p>次に、基本方針6の②については、就学前教育や保育を小学校教育に円滑に接続していく仕組みである、いわゆる架け橋プログラムを見据えた方針に改めております。</p> <p>また、基本方針9の①と②について、学校運営協議会と地域学校協働本部について、現状を踏まえ、一体的に推進する内容に改めております。</p> <p>このほかの赤字の箇所は、より適切な表現となるよう、文言の修正を行っております。</p>

	<p>最後に、右側に各施策の主な取組みを記載しておりますが、今後も継続して実施していく取組みのほか、新たに計画に位置付けて進めていく取組みを記載しております。</p> <p>多くは、これまでの取組みを継続していくものでありますが、新たな取組みとしては、基本方針5の「中学校部活動地域展開推進事」で、まずは、運動部活動の休日の地域展開を目指して取組みを進めてまいります。また、基本方針6の「架け橋期のカリキュラム作成」については、今年度の八幡平地区での取組みを皮切りに、順次、取組みを進めていくこととしております。学校教育振興計画の改訂案の概要は以上となります。</p>
笹本市長	<p>説明が終わりました。ただいまの説明について、委員の皆様からご意見ご質問等がございましたらご発言をお願いいたします。</p> <p>はい、田中委員、どうぞ。</p>
田中教育委員	<p>一つ確認をさせていただきたいと思います。大綱もしくは市の計画、それからこの基本計画等々の説明を受けてるわけなんですけれども、これはこの後に続く市長さんとのディスカッションというか、そういうものの前段階なのでしょうか。それともこういう決定の場で次に進んでいくというイメージでいいのでしょうか。どういうイメージでこの会議を進めているのかちょっとお聞きしたいと思います。</p>
総務学事課長	<p>大綱につきましては、総合教育会議の中で、市長と教育委員さんが協議して策定するということとなりますので、この場で策定という流れになります。それ以外の個別計画につきましてはそれぞれの策定過程がございます。関係者の委員の方から意見を聞いたりですとか、この学校振興基本計画につきましては、教育委員会会議の方に正式な案を提案して、ご意見いただくということになります。個別計画につきましては、今後さらに検討を加えて成案化していくというふうな流れになっております。</p>
田中教育委員	<p>わかりました。そうすると大綱については、協議の上決定ということで進んでいるということと、計画については、意見を持って次の部分に入っていった決定プロセスを経るということで、その後には市長さんとはこれをベースにディスカッションできる時間はあるんですか。</p>
総務学事課長	<p>この場でいろいろ意見を交わしていただければと思います。</p>
田中教育委員	<p>先ほどの大綱の前にですね、いわゆる総合計画の基本構想のところで、人口推移が出ておましてとてもショッキングな数字だなと思って見ておりました。昨年でしたでしょうか、こども計画の策定の場にもおまして、その場でもこの5年ごとの人口推移が見直されて、ショッキングな数字を目にしました。というのも、これ見てすぐにわかるのは、当初計画していたものから千人規模で、減少しているということでありまして、私もこの地域に住む人間として、この数字を見ると本当に怖いというか、これからどうなっていくのかなというふうに思っております。その中で、今の学校の基本計画、それから大綱の中で、5年計画の中でというところで決定プロセスを上げたのは、それはそれで遡ることではないんですけれども、例えばこのような推移の急激な人口減、もしくは子どもたちの0歳から14歳までの学校に通う子どもたちの人数が激変してしまっているということでありまして、これから話す話は、箱物とか予算の話ではなくて、基本のお話を市長さんから聞きたいなと思うんですけど、当初学校再編計画を進めて、今の学校が出来上がったときにもおりましたけれども、そのときには、地域には地域の資産として学校を一つ残していくんだというふうに議論したというふうに記憶しております。学校適正規模からいくと当然適正ではないんですけども、地域に学校が必要だというふうに、その頃のお話では判断し様々なコンセンサスを得て進んできたと思っております。これから先、やはり子どもたちは、学校教育では、基礎的な学力の向上はもちろ</p>

	<p>んでありますけれども、集団の中での成長、それから社会を知るといった大事な集団行動もあると考えております。そういった中で、今後どのように学校教育の環境を整えていくのか、お金とか箱物の話ではなくて、例えばこれから少なくなるという子どもたちをどのように大人として見守って、教育環境を作っていくのかというところを、市長さんのお考えを聞きたいですし、またそれに向かっていく事務的な段階、フェーズの話もお聞きしたいと思うので、本計画とはちょっとずれるかもしれませんが、多分ここに並べている様々なことが、そういった学びの場という、学校環境も含めての文言になっていると思いますので、そこを今の段階ですけどお聞きしてもよろしいでしょうか。</p>
笹本市長	<p>私の基本的な考え方としては、優先順位の第1にあるべきは子どもたちのことだと思います。地域のコミュニティがとか、活気がないとかいろいろな要素があるんですけども、優先順位をあえてつけるのであれば、やっぱり、子どものことを第1に考える。なぜならば、彼らの人生を豊かなものに、そして今こういう教育大綱なりそういったところで謳っているような力をしっかりつけてもらうことこそがやっぱり市が果たすべき役割だと思います。その中で、生徒数なり出生数がどんどん減ってきた中で、そのような観点で、今後どう変化していくかという議論の方向性になっていくだろうなというのがまず大元にはあります。</p>
田中教育委員	<p>学校訪問させていただきまして、1クラス10人にも満たない学校があって、それが悪いというわけではありません。子どもたちも生き生きしていますし、とても現場が整然としておりますし、学習規律もしっかりしていてそれは素晴らしいなと思っております。ただ先ほど言った、集団がもたらす成長効果ですとか、そういったことを考えると、ある程度の規模の学校は今後考えていかなければいけないんじゃないかなと思います。例えば、小学校と中学校が一つになるというプランもあると思いますし、あとは地域的なもの、融合しなければいけないと思うものというか、今後検討しなくてはいけないのかなというふうに思います。そういった観点でいきますと、前はあくまでも地域に一つの学校を残すという、それが大前提でありましたけれども、今後それを越えた議論が始まってくるのではないかなと思います。その視点でいくと、学校の適正な規模について、これからの進むべき方向ということで、例えばこのくらいの期間をもって検討していくとか、イメージはおありなのでしょう。</p>
総務学事課長	<p>はい。学校の統合も含めた再編が喫緊の課題ではあると思っております。現状では、今年度市民意識調査の中で、学校再編に関する市民の意見、あとは10月に保護者を対象にしたアンケートを行っておりまして、今集計中です。大まかな回答結果につきましては、統合もやむを得ないというのが大半を占めております。特に保護者アンケートでは、実際に令和6年度に生まれた子どもが65人なので、具体的にそれが7年後の小学校1年生という規模も示しながら、また、中学校の15歳までの現状で試算した人数も示しております。その上でどう考えるかということで、おおむねは統合もやむを得ないというふうな意見をいただいております。それをもとに、教育委員会として今後の方向性について検討してまいりたいと思っております。その際、スケジュールも含めて、まずは教育委員会の方で方向性を整理したいと思っております。その上で教育委員会の皆さんにもご協議いただきたいと思っておりますが、それは待たないで思っておりますので、先ほど市長も申し上げたとおり、教育委員会としましてはまずは子どもの環境を最優先に考えていきたいと思っております。その上で国の方でも適正な学校規模というふうになれば、一つの学校に複数学級というふうな基準を示しております。地域的な要因があってそれがかなわない場合は例外もありますけど、そういったものを参酌しな</p>

	<p>がら、将来的にどういった環境が望ましいのかということを検討してまいりたいと思います。しかるべきときに教育委員の皆さんにもご協議はさせていただきたいと思っております。</p>
田中教育委員	<p>実は今年、教育委員の再任をさせていただく際に、市長さんから委嘱状をいただいたときにお話をさせていただいた中で、様々な経験をするのと、それから夢に向かってイメージをすることが非常に大事だよというお話を聞いていてなるほどなと強く心に思った記憶がございます。そういったことも含めて、多分小学校の、もしくはその前の子どもたちも含めて、様々な経験や体験をすることが大事なのではないかなと思っておりますので、本当に皆さんおっしゃったように、近々の課題で最優先だという言葉聞いて少しは安心しているわけですが、それにしましても、先ほどおっしゃった出生数が65人程度、その話を聞いて私もびっくりしました。簡単な話で、すごい雑な言い方をすると、学校は1校でよくなるんじゃないのぐらいの数ではないかなと思うんですね。そうなりますと、ものすごくたくさんの方の合意を得ながら、いろんな形を進めていかなくてはいけないと思います。それも待たないでとすると、イメージとかある程度のことはもう着々と進めていかないといけないのかなというふうに思っています。今産まれた子が60人程度で、たまたま来年、うちの息子と娘が1人ずつ子どもが生まれる予定であります。私は孫の立場にはなるのですが、その子どもたちが将来どうなっていくのかなとすごい心配なところもあります。ということは市民の皆さんもすごい心配しているのではないかなというふうに思っていますので、急ぐだけがいいとは言いませんけれども、着実な合意形成で、計画を進めるべきだと思っておりますので、できるだけその骨子を早めに示していただければありがたいなと思っております。</p>
阿部教育長	<p>立场上私から。本当に市長、課長が言ったとおりで、子ども最優先、それに本市の事情というのを勘案してということになると思います。あとは、適正な規模だけにこだわるとやっぱり弊害も出てきますので、どういった人材を育てたいか、どういったところには、どういった学校が必要かというような、鹿角市の将来像から逆算しながらのビジョンというのは必要だと思います。まず子どもたちが第1、それから鹿角市の将来像、将来を支えていく子どもたちを育てるための学校配置がどうあるべきかということ。また、他県の例がありますけれどもそういったビジョンから逆算して、核となる大きい学校を残して、周辺部には通いやすくあとは地域の核となるような小さい学校という、この2拠点方式というのを実施しているところもありますが、それが本市の地域的要件とか社会的要件に合致するかどうかということも慎重に検討しなければいけないと思いますので、お二人からお話が合ったように、まず優先順位を決めながら、喫緊の課題として、合意形成を図っていくということで一致しておりますので、よろしく願いしたいと思います。</p>
田中教育委員	<p>大変わかりやすく説明いただきましてありがとうございます。市民として、いっぱい課題とか不安はあるわけなんですけども、やはり次の時代を担う子どもたちの成長が本当に最優先であるべきだと思っております。そこで学んで鹿角を好きになって鹿角に住むというところに繋がる基本的な話ではないかなと思っております。単なる箱物の話をしているわけではなくて、将来に繋げていく、次の時代を担っていくのは子どもたち以外にないわけでございますので、もう本当に私達今生きている大人の責任として、絶対しなくてはならないのかなというふうに考えておりますので、何とかその辺のところをよろしく願います。ありがとうございます。</p>

<p>笹本市長</p>	<p>もう少し言うと、教員というか、生徒たちの教育に影響する側の質ということをしつかり考えていかないといけないなというふうに思います。ただ、分散すれば、その分、先生たちも分散する。集約すれば、集中的に、これも医療の分娩機能とかとちょっと似たところはあるんですけども、チームを作ってしっかりサポートできるようにする部分とか、いろいろメリット、デメリットとかあるんですけど、この鹿角市の子どもたちにどういう教育を受けさせてどういう人間になって欲しいかというところからの逆算、そこを決めた後、それを補完する方法というのを考えていくとか、そういう基本的なプロセスでいきたいなというふうに思います。</p> <p>他にございますでしょうか。和田委員。</p>
<p>和田教育委員</p>	<p>はい。今回の教育振興基本計画なんですけど、中身に関しては特におかしいとかそういったことはないんですけど、どうしても今皆さんおっしゃられている環境が激しく変わっていく状況ですので、いざ運用する場となったときに、ちょっとずつ通用しないというか、ちょっと変えなきゃいけないという場面も出てくるかもしれませんし、実際に頑張ってもらっているのは学校の先生方であったり教育委員会の皆様であったりと思うんですけど、そのときに運用にあたっては柔軟にできるように基本をしっかりと決めて、このように策定していただいていると思うんですけど、例えばなんですけど一番上の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実と主な取り組みに書かれてる内容だけでは対応できないはずなんです。実際には学校の先生が四苦八苦しなながら、どうすれば目の前にいる子どもたちのためになるのかというのを毎日悪戦苦闘しながらやって、1年間かけて、うまくいった、いかないというのが成果として出てくると思うので、決めるときと実行するときというのは、柔軟にできるようにしていただければなと思います。あと、私自身ちょっと古い考えを持っていたなという反省があったんですけど、ちょっと前まで鹿角市出身の先生と、そうじゃない先生という意識がどこかに私自身ありました。ただ、今、先生方の年齢構成を見ると、そうも言われてられないなと思います。鹿角市の学校にいる先生に鹿角市の出身であることを期待するのはなかなか難しい現状になっていますので、こういった基本計画とかは、鹿角の学校はこういう教育をするんだよというのを、どこ出身の先生でもそれを理解していただいて、鹿角の教育にプラスになるような教育を、先生方が一体となることができるような計画を先生方に理解してもらおうというのが必要になってくると思います。先ほど市長がおっしゃられた教える側の資質とかそういったことが大変重要だと思いますので、鹿角とか鹿角じゃないという考えを捨てて、鹿角の子どもに教えるのはこういうやり方だということを周知できるような仕組みを作っていただければと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>阿部教育長</p>	<p>はい。鹿角、鹿角以外ということは、私自身は全くないですね。やっぱり鹿角の先生、鹿角以外の先生というのは、アンコンシャスバイアス、何か思い込みもあって地域の期待もわかるんですけども、私が実際に学校に勤めているときに、市外、県外からいらっしゃった先生方も鹿角を知ろうとしてくださって、私も気づかない鹿角の良さも教えてくれて、子どもたちとも一生懸命関わっています。子どもたちから鹿角のことを知りたいというふうに思っているのも、子どもたちとのコミュニケーションも必然的に多くなりますし、すごく心に残る先生たちもたくさんいらっしゃいました。私もそういう先生たちに、鹿角の故郷の良いところや特徴などをまとめたものをあげて、それに基づいて地域を見ていただいたり、意見をいただいたりというような活動もしてきました。そして、ことあるごとに地域の方々にも、今言ったようなこととお話して、地域のアンコンシャスバイアスをいかにして取り除くか、あんまり地域が分け隔てて考えると子ど</p>

	<p>もたちもそういう目で先生を見るので、そうすると他の先生も、いい先生だけでも、私たちはこの先生じゃない方がいいと言ってるみたいな感じで受け取ってしまうと教育効果も半減してしまうので、もちろん今の現場の先生たちも努めてくださっていると思いますので、そういったことがないように、私達も積極的に発信し続けたいなというふうに思っております。それから、ここに書かれています主な取り組みについてでございますが、主に予算が伴うようなものが書かれていますので、委員がおっしゃるように多岐にわたった取り組みがたくさんあるわけですが、ここに表されているのは、予算が伴うものというふうにご理解いただければいいのではないかと思っております。</p>
笹本市長	<p>私自身も鹿角出身者じゃなくて、でも市長をやってすごく思うのは、やっぱりこの鹿角という素材をいかにうまく使って料理するかというところが大事で、新しく他のところから来た先生たちも冷静に、鹿角という教育のフィールドをどう生かせば子どもたちが育っていくかなという視点というのはすごい大切だと思うし、一方でやっぱり地元で育った先生たちというのは、もう小さい頃から例えば伝統行事であったりへの思い入れとか、そういったものは子どもたちに伝わっていくと思うので、いろいろミックスしている状態というのは子どもたちにとってもいろんな価値観とか、そういったものに触れる機会になっていいんじゃないのかなという感じはしますね。どんなふうに地域を生かしていくかということで、いろんな経験をした人たち、いろんな感性を持った人たちがともに一緒になって考えるということがいいと思います。</p> <p>もう一つ、基本方針2のところ、社会的職業的自立を目指した教育活動の推進とかその辺りにも関わるんですけど、究極的に言うと、あなた、どんな人生を送りたいの？というのがすごく大切だと思うんですけどね。そのためにはやっぱり自分というものも結構しっかり知ってないといけないし、自分にとっての幸せってどういうものなんだろうというのをしっかり持っていないと、小さいときってなかなか難しいとは思いますが、そういう問いかけみたいなものを増やしていった方がいいのかなと思います。どうしても職業から入るとか、これをやるとかというところからなんですけど、もっと人生の方向性として自分はこういう方向性でありたいとか、こういうところに喜びを感じるみたいなところをしっかりと自分自身を知る。それが知れていれば、自分がどういう道を選択するのがいいのかなというのもすごく見えてくると思うので、そういうところも育てていけたらなという個人的な思いでした。以上です。</p>
阿部教育長	<p>文部科学省や教育委員会が言っている進路指導がまさにそれなんです。一般的に進路指導というと、進学指導とか就職指導とかということをおっしゃるんですが、進路指導の目的は生き方あり方指導なんです。よく言われるのは、あなたはどの職業に就きたいかではなくて、あなたはどの職業についてどのような人生を送りたいですかと、どのような職業人になりたいですか、どのような人になりたいですかというのを追求するのが進路指導で、そのために市長が今おっしゃったように、進路指導の第一歩は、自分を知るということで、学習指導要領とか指導書の中にもそう書かれていますので、先生たちも学級活動の中の進路指導の時間になるとそれを思い起こしながらやっていくわけですが、おっしゃるとおり、一般的な人もそうですし、先生たちの中にも、進路指導イコール進学指導、就職指導というふうになっている方もいると思いますので、引き続き、本来の進路指導のあり方、その先にふるさとキャリア教育もあるという意識を啓発していきたいなと思っております。</p>
笹本市長	<p>なぜこのお話をするかというと、先日、鹿角高校の1年生が市役所が将来の就職先として興味があるということで来たときに、何で来たの？って聞いたら、市役所安定して</p>

	<p>るしと一番に言うんですよね。でも正直な気持ちだなと思う反面、手段と目的を混同してるなと思ったんですよ。中には鹿角の花輪ばやしとかそういうところが好きで、ここにずっと関わっていくためには、市役所職員という立場から人生を歩むのがいいという子もいた反面、多くはやっぱりそういう観点だったんですよね。そこがそもそも違うんだよというのを早く教えてあげるべきだと思うんですよ。人生どうありたいかからにしないと、目先の安定してるか、楽か、そういったところから思考していると、主体的な人間というのはできてこない。手段と目的、こういう思考であるべきなんじゃないかというところに、早く気づいてもらうという機会も必要なんじゃないのかなと思って、今あえて述べさせていただきました。</p>
阿部教育長	<p>そのためにもやっぱり先生たちの関わりで、切り返しというのが必要だと思います。何の時間でもそうですけど、私が小学校に勤めていたときですけれども、子どもたちと同じような感じで、お医者さんについて、こちらは命を救いたいとか、困ってる人を助けたいとかという答えを期待するんですが、何でって聞くと、収入がいいからということを書いてくるんですね。でもそのときに、収入がいい他には？というような、いろんなことを切り返したりすることで、今市長がおっしゃったようなことに気づいて、いろいろ考えるようになってる気がするので、大人の関わり方ということと、あとは組織的な計画的な指導のあり方ということは検討していかなければいけないなと思いましたので、伝えていきたいと思います。</p>
和田教育委員	<p>今の話に関わるんですが、子どもたちがなぜそういう物言いをするかというのは、多分に親の影響が大きいです。私いろいろな親御さんとお子さんと接していますが、隣の芝生はなんとやらで公務員安定してていいよねって見えるけど、公務員がどれだけ大変な仕事をしてるかというの知らないで子どもたちに日々伝えてますし、お医者さんとか医療従事者の方が安定して収入もいいよねと言いますが、その方々がどれくらい重い責任を負いながら仕事しているかということは全く考えないで、収入ただその1点のみだけお子さんにお話しているというのが多いです。なので、そういった意味で考えると、学校の教育も大事なんですけど、そもそも親がそういう知識を持って、子どもがどう生きたいかというのを考えられる親、親自身が経済的に汲々としているとなかなかそういう余裕も出てこないとは思いますが、だからこそ子どものために、子どもがどう生きたいかということを考えてあげる親になってほしいなと言いますか、自分自身がそうかと言われると全然足りてはいないとは思いますが、考えている人たちの頑張りを他の場所で子どもたちにちょっと余計な茶々が入っているなというのが現実なのかなと思います。</p>
阿部教育長	<p>取っ掛かりはいいんじゃないかなと思います。やっぱり収入がいいとか憧れの職業とかそれが起点になっていろいろ調べていくうちに知っていく部分があって、初めからそれはこうだよっていうとなんか大変さばかり際立ってしまって、意欲が削がれてくる。モチベーションの部分もいると思いますので、徐々にという発想も私達周りの人間は持っていないと、初めから詳しく全部知らせることがベストではないような気がします。憧れの部分も勘違いの部分も、モチベーションもあって、それで育って行って、いずれいろんな岐路に立たされるわけですので、その岐路に立ったときに、賢明な選択ができるような指導というものを意識していくのも私達の役目じゃないかなということも考えています。看護師さんに憧れる人たちも、あまりにも多岐にわたった仕事を目の当たりにすると、大変さが際立ったり、血も見ますしいろんなこともあるので、いかに夢の部分を引き伸ばしながら、だんだん現実に戻していくということも視野に入れながら、進</p>

	路指導していくべきと、いろいろなキャリア教育をして感じたことでもありました。
笹本市長	<p>そうですね。私自身が親が医学部行けとかそういう系の親で、やっぱり医学部行く子が優等生でとか、そういう価値観の押しつけみたいになって、自分の場合、何とか人生切り開けたからよかったけれど、他人のせいにする人生になっちゃうんじゃないのかなというのも結構思ったときに、やっぱり子どもたち自身が自分で考えて、しっかり自分の選択をできるような環境を、もしかしたらなんですけど今の親を変えることは難しいとしても、今教育している子たちにはもう最短で多分親になったりするということもあると思うので、という観点からしっかり、ウェルビーイングとかいろいろなものにも繋がると思いますけども、そういう子どもたちを育てていければというふうに思います。むしろ、自分で考えることはすごいっらいことでもあると思うんですよね。答えがない中自分で答えを出さなきゃいけない。でも、それができるようになるってこと自体も、それをできるような術なり物を授けるってこと自体が子どもたちのためになるんじゃないかなという気持ちでおります。</p>
田中教育委員	<p>市長初め教育長のお話をなるほどなと思ってお聞きしていたんですが、先ほど市長がおっしゃられたように、夢を持ち、そして将来に希望を持つための教育というふうなことでありましたけど、実は私も長いことこのビジネスの中で生きておりますので、様々なこともあるわけなんですけど、たまたま機会をいただいている、高校卒業後とか、専門学校卒業後のいわゆる新社会人を鹿角市で毎年社会人教育、新入社員教育と一緒にやっております。その中で1日時間をいただいております。その15年の中で、新社会人と出会ったイメージが全く違うんですね。10年前の新社会人と、今年社会人になられた方々の雰囲気が全く違うというのは、たまたまその人たちがそうだったかはわかりませんが、要はですね、叱られ慣れてないというか、社会において当然のことながら、パワーハラスメントではなく、指導ですとか、その人に伝えたいから声が上がるというのがないんじゃないですか。それがいいとか悪いとかってことではなくて、社会の現実と照らし合わせられたときに、すぐじけちゃうんですね。つまり、多分、学校現場でも先生たちはいい先生で、昔は先輩怖かったんですけど、そういうのもなく、本当にいい状態で中学校、高校へといって、いきなり社会人になって社会の現実と立ち会ったときに、ああ、できないなと言ってすぐ退社をする、もしくは引きこもりになっちゃうというのが、ものすごい社会問題であると思いますし、当市においても、そういう人いっぱい見えています。何が悪いとかではないんですが、学校教育で先ほど教育長がおっしゃったように、これから働くための様々な教育というところの観点でお話をしていますけれども、さっき市長がおっしゃられた市役所に入所することが安定だということもあると思うんですが、私は独立して自分で仕事を起こすような気概がある子どもたちに育ててほしいないつも思っていました。サラリーマン教育ではなくですね、何か夢があったらその夢に向かって自分で商いを起こすんだぐらいの、一歩踏み込んだ教育があってもいいのかなと思っています。それは小学校や中学校でできることではないかもしれませんが、特にずっと確認をさせていただいたことは、小学校とか中学校では、鹿角を愛し、そして夢を持ち、という教育がすごい色濃いんですが、なぜか高校に行くとそういうものではなくて、どちらかという、面接ですとか筆記の入社試験ですとか、そちらに重きを置いてしまって夢がどこかに飛んじゃうんですね。ですので、さっき言われた小中高一貫として考えるのであれば、人生というのは大人になって社会に出た方がもう何十年も長いわけで、その基礎学力を小学校、中学校そして高校大学専門学校で培うんだとすれば、もうちょっと</p>

	<p>社会性に順応したような教育もあっていいのかなと思うんですが、ちょっと言い過ぎでしょうか。そういったところを、地域のビジネスに長いこといる人間としては、もうちょっとカチッとしたビジネスコースがあってしかりとは言いませんけれども、もう少し現実に照らし合わせたようなことがあってもいいのかなと。先ほど就労体験ですか、仕事場に行って、その仕事を体験するというのを、弊社もいろいろと受け入れていて、来た子どもたちといろいろ話をするんですが、将来何になりたいか聞くと、ないんですよ。漠然と警察官になりたいとか、市の職員になりたいというのは聞きますけど、そうじゃなくて自分で何かないの？というあまりないんですね。なので何を言いたいかというと、基礎学力の向上が最も大事だと思うんですが、それにプラスしてその生き方教育というのを入れ込んでいただいて、もうちょっと地に足の着いた現実味のある教育をこれに盛り込んでいただければありがたいなと思っております。</p>
阿部教育長	<p>先ほどの進路指導にも通ずるところで、キャリア教育そのものが生き方教育というふうに言われておりますので、そういう範疇であり、おっしゃるとおり、検討していきたいと思えます。あとは、委員もご承知のように各学校では、ようこそ先輩とか、あるいは企業人の方とかを招いてレクチャーしていただいたりということで、起業した方とかのロールモデルに触れるという体験も、やっぱり子どもたちが自分事として考えていく起点になると思えますので、機会を創出していき、その中から選択していくのは子どもたちだなというふうに思えますので、私達の役目として、いろいろな機会を提供していくことを意識していきたいと思えます。</p>
笹本市長	<p>私もサラリーマンやったあと1回辞めてちょっと人生の方向性を模索した期間があるんですが、そのとき思ったのは、今まで会社の看板があったのがなくなった瞬間、自分1人のみで売り込んでいくなり、何か切り開いていけないんだっていうのに直面したときに、初めて、こういう力が必要だなとか結構気づいた部分もあったりして、例えば、野球部なり部活をしっかりとやった人間というのはその辺何か目標を達成するためにいろいろ泥臭いことなり経験する機会もあると思うんですけど、折れちゃうというのは何をしたいというものが少ないからこそ、そこに対して折れやすくなるのかなという部分もあると思うんですよ。目的意識がしっかりしていれば耐えられる部分があるとか、強い弱いというよりはその部分の経験というのはあったらいいんじゃないのかなというのは思います。</p> <p>他にご意見ございませんかね。</p> <p>そうしましたら、次に第9次鹿角市社会教育行政中期計画骨子案について事務局より概要説明をお願いします。</p>
生涯学習課長	<p>はい。それでは私から説明します。資料5をご覧ください。第9次鹿角市社会教育行政中期計画の骨子案について、説明いたします。市総合計画後期計画及び、秋田県の第4期教育振興に関する基本計画に沿い、また、第8次の市社会教育行政中期計画の成果等を踏まえ、次期計画の骨子案を作成しました。計画期間は、令和8年度から12年度までの5年間です。</p> <p>基本理念を「地域資源を活かし 豊かに学び 持続可能な地域を創る人財を育成する」として、6つの基本目標を設けています。基本目標Ⅰでは、「社会教育施設やデジタル技術を活用し生涯学習環境の充実を図ります」として、各団体間との連携により各種事業を展開し、多様なニーズに応じた学習機会を提供するとともに、デジタル技術の活用による学びやコミュニティの充実に努め、生涯学習環境の場づくりを進めてまいります。また、花輪及び十和田の両図書館を中心に、関係機関との協力により読書活動を推進し</p>

	<p>てまいります。</p> <p>基本目標Ⅱでは、「持続可能な地域の創り手を育成します」として、地域課題を自分事と捉え、主体的に考え行動する人材育成を進めることとし、特に若者の施策に重点を置き、取り組んでまいります。また、ウェルビーイングの考え方にに基づき、誰もが幸せや生きがいを感じられる地域活動やボランティア活動などへの参画について支援してまいります。</p> <p>基本目標Ⅲでは、「地域・学校・家庭が連携し、子どもたちの育ちと双方向の学びを支援します」として、地域学校協働活動の更なる拡充を図り、学校運営協議会との一体的な推進に努めるとともに、地域や学校、家庭が相互に理解を深められるよう、活動の展開を図ってまいります。また、家庭教育支援や青少年の健全育成に向けて、関係団体と連携した支援を進めてまいります。</p> <p>基本目標Ⅳでは、「社会課題や地域特性に応じた学習や活動を支援します」として、市民センターを中心とした事業のほか、社会課題や地域課題を的確に捉えた学習活動や、地域資源を活かした学習活動を推進してまいります。</p> <p>基本目標Ⅴでは、「文化芸術活動の振興と文化財の保存活用を推進します」として、文化の社交交流館を拠点とした多様な芸術鑑賞機会の提供と合わせて、次代の文化芸術をつくる人材育成や団体活動を支援してまいります。また、民俗芸能の活動支援及び、文化財資料のデジタル化を積極的に進めるほか、今年度末に策定する「大湯環状列石第二次環境整備基本計画」に基づく保存・整備や、調査研究等に取り組みます。</p> <p>基本目標Ⅵでは、「誰もが尊重され共に学びあえる地域社会の実現を目指します」として、障害の有無にかかわらず、誰もが共に学びあえる共生社会の推進を目指し、更なる学習活動の充実を図ってまいります。以上、6つの基本目標にそれぞれ「施策の方向」と「事務事業」の主なものを掲示しております。事業を進めるにあたっては、成果指標を基に課題等について、年度ごとに点検評価を行いながら計画を推進してまいります。なお、記載の事務事業については、来年度予算要求ベースでありますことを申し添えます。説明は以上となります。</p>
<p>笹本市長</p>	<p>説明が終わりました。ただいまの説明について、委員の皆様からご意見ご質問等がございましたらご発言をお願いいたします。はい、田中委員、どうぞ。</p>
<p>田中教育委員</p>	<p>はい。以前の中期計画の策定の際にも同じような話をしたかもしれませんが、今回のこの骨子の中ではローマ数字のⅢ、③のところ、家庭教育の推進事業のことについてでありますけれども、たまたま昨日一昨日、孫が来ましたので、弘前に出かけてまいりました。元のダイエーのヒロロですか、あそこの3階あたりに市の施設が入っておりまして、そこをお借りしてちょっと子どもを遊ばせながらぐるっと一周しましたら、新生児ではないんでしょうけど、生まれてすぐのお母さん教室をやっている、すごいお母さんと子どもさんがいて、いろんなことを指導されておりました。当然鹿角市においても、これから生まれる若きパパとママを集めていろんなご指導していただいたりして、うちの息子も行ったので、私の頃にはなかった赤ちゃんを抱っこする方法ですとか、手厚く若きお父さんお母さんたちの教育をされてるんだなというのを目にしていました。ですが、私が言いたいのは、生まれたてのお父さんお母さんたちの学びの場というのはあるんですが、例えば小学校や中学校の人間発達上、一番人格の形成に必要な時期のお父さんお母さんたちが、ともすると、若きお父さんお母さん方のまんまいて、家庭で本来やらなくてはいけない躰ですとか、生活習慣ですとか、様々な価値観の教育ですとか、がもしかするとだんだん手薄になってきてるんじゃないかと、先ほど和田委員も同じよ</p>

	<p>うな話をされていましたが、そういった部分も含めて、もうちょっと大きい年代になってからの人間形成の大事な時期の小学校世代の親たちとか、中学生になっていってだんだんと個性が出る時の親のあり方といったところの場の家庭教育というのが、ちょっと薄いんじゃないかなと思っておりまして、例えばPTAとか、そういったところで場はあるとは思いますが、もうちょっと本市ならではの鹿角市版の、パパママ講座みたいなものがあるのもいいのかなと思っておりまして、できれば小学校、中学校に入ってきたお父さんたちにも、ちょっとした子育てのヒントになりそうな場があるのもいいのではと思ってましたが、そこら辺の部分は、本計画には入るのでしょうか、見えないものなのでしょうか。</p>
生涯学習課主幹兼社会教育班長	<p>家庭教育推進事業というふうに想定する事業を記載しておりますけれども、現在でも小学校に入る前の来年度1年生になる保護者の方々を対象にした子育て講座というものを、全部の学校で実施させていただいております。タイミングとしましては、就学児健診の際か入学説明会かどちらか学校の都合の良い日にさせていただいております。そのタイミングですと保護者の方々も来てくださいますが、講座を実施するときいつも課題に思っておりますのが、真面目な方は来てくださるんですけども、うちの方でこの人たちに届けたいというふうに思ってる人たちが、そうした講座になかなか来てくださらないということもございまして、できるだけそういう対象となる方々が集まりやすいときにぶつけて講座をするようにしております。また、小学校に入学のタイミングとは別に、家庭教育講座というものも希望する学校さんを対象に実施しております。テーマはいろいろでインターネットに関するものですか、中学校に入るタイミングでどうしてもやっぱり小学校と中学校では、子どもたちの生活態度が変わってきますし、そういった保護者の抱えがちな悩みや不安を取り除くような、学校の方からこういう講座を開催してほしいという要望を聞きまして、うちの方でこういう講師の方どうでしょうかという、アシストするようなスタイルでやっております。その他にも先日行いました青少年を育てる市民のつどいを鹿角PTA連合会と合同でやっております、保護者の方々も来ていただいて構いませんというふうにしておりますが、やはりそういった場合ですと、興味関心のある方は来てくださいますけども、ちょっと来てくださる方々に偏りがあるのかなというふうに思っておりまして、家庭教育はやはり重要ですので、いろんな機会を通じて、できるだけ情報提供したり悩みや不安に対応するものに関しては子ども未来センターの方でもかなり力を入れてくださってますので、そういったところと一緒に事業をやっておりますし、時々情報交換をしながら進めておりますので今後も強化していきたいというふうに思っております。</p>
笹本市長	<p>教育長、参観日とかはうまく使えないのですか。</p>
阿部教育長	<p>参観日も実態は、子どもの授業参観が終わるとワーストと帰ってしまって、今のお話のとおり、意思のある方々が何分の1か残るということでもありますので、やっぱりそういう場を提供していくことで口コミで年々広がっていく要素もあると思いますので、場面場面で場を設定するのが私の役目だと思います。場を設定した結果、改善点がどのように見えてくるかというところで、まずはやっぱり今ご提案があったように、どうしようもないんじゃないかと、場を設定できないかという発想は持っていかなければいけないというふうに思っております。</p>
笹本市長	<p>参観日で子どもと一緒に親も同じものを聞くというのは、参観の趣旨と変わるのかもしれないけど。</p>

阿部教育長	<p>小学校の低学年と親御さんとはやっぱり別々ですので。そういう場合でもお子さんたちが読み聞かせとか読書、テレビ見たりとか、モニター見たりとかしている間に親御さんたちのそういう場を設定してはいるんですが、利用しながら参加してくださる方と、子どもと一緒に帰ってしまう方もいますので、場の持ち方の工夫が必要だと思います。田中委員がおっしゃるように、場面場面で課題も変わってくるのでその課題に即した講座が可能かどうかということは検討の余地はあると思います。</p>
笹本市長	<p>例えばですけど、今の中学生たちが大人になったときに、そういった講座に、今の親よりも出てみようという意識づけを強める考え方とかはありますか。今の親は変えられないかもしれないですけど、未来の、子どもたちが親になったときという観点だとどうですかね。</p>
阿部教育長	<p>今も熟議とかに中学生も参加したりしていて、そういう場面の有効性については学ぶ場というのがありますので、そういったことが学校時代は学校時代、社会人になると別なんだという発想ではなくて繋げていくような発想も含めて、子どもたちが関わる会合の持ち方というのは、今の話を意識しながら考えていかなければいけない。学校のときは活発にいろんな会議で発表したり議論したりしてるけれども、だんだんそうならなくなっていくということ、しょうがないことではなくて、仕掛けも必要なのかなというふうな意識は持たなければいけないと、今お話を聞いて思いました。</p>
笹本市長	<p>極端な話、日当出せば来るんじゃないですか。それがいいかどうかは別として。だんだん人数も少なくなってきたときに、それやってでもというのも一つかもしれないですよ。</p>
阿部教育長	<p>未来への投資ですね。</p>
笹本市長	<p>そうですね。田中委員、どうぞ。</p>
田中教育委員	<p>いろいろなお話がありましたが、いろんなメニューをたくさんされていて、ただ、声を届けたい人にはなかなか届かないジレンマがあったり、もしくはその場を設定しても、なかなかその場に本当に来てくれないという現実も、私達子育てのときにもありましたし吉田委員とPTAが長かったのですが、当時も同じような悩みはあった気はしています。ただ、何を言いたいかといいますと、場はどんどん作っていった方がいいと思いますし、昔はご近所のちょっと上の先輩方が、ちゃんとしないとダメだよとか、もしくは近所のおじいちゃんおばあちゃん方が、自分の子どもを結構叱りつけてくれるというような場面もあったような社会が形成されていたと思います。ですので、この社会教育となるとすごい広くて、生まれてから死ぬまでが教育だよという生涯教育にも続くと思うんですけども、鹿角版の、地域で見守り子どもを育てるのは地域のみんななんだよということ、もうちょっとわかりやすく、しかも具体的な例を出しながらやっていくのも一つじゃないかなと思っております。単なる母親教育とかお父さん教育だけではなくて、社会全体で子どもたちをみんなで見守るんだよ、躰けるんだよというようなことができていったらいいなと思っておりますので、なかなか難しくて広いプランニングになると思いますけど、ちょっと総合的に、子どもたちを真ん中に見据えたときに、親御さんももちろんですが地域のみんなで、地域で育てるんだよっていう、もうちょっと具体的なプランに落とし込んでいただければと思っておりますので、ご配慮いただければと思います。</p>
笹本市長	<p>他にございませんか。はい、和田委員。</p>

和田教育委員	はい。基本目標5番、文化財の保存活用を推進しますとありますが、特に有形文化財なんですけど、所有者が個人になっている場合、今ご存知のとおり高齢化が進んでおります。所有者が亡くなった場合にどのように継承されていくのかというのが、はっきりしてるものと、正直わからなくなっているものもたくさんあると思うんです。私すごくそれ心配しております、何とか継承といいますか、ただでさえ遺産相続嫌だという人が増えてるこのご時世で、文化財というちょっと興味のない人にとっては重くのしかかるようなものになっているときに、そういったものをどうやって継承していくかということは、何か市の方でお考えがあるのかお伺いしたいのですが。
生涯学習課主幹兼文化財振興班長	はい。まず、文化財の価値を家族が理解しているかというところだと思えるんですけども、亡くなって、残された文化財が重要なものかどうかという価値がわからなければ、処分してしまったりするケースもあると思いますけれども、市の方ではその貴重なものにつきましては、個人所有の場合は寄附という行為でいただいているのが現状です。全国から様々な鹿角市の民族芸能に資した物ですとか文化財が寄附されている現状もありますので、まずその寄附していただくという行為があるんだよということを周知していくことが大切なのかなというふうには思っております。
和田教育委員	私も仕事柄、これ持ってつてくれって言われることがかなりあるんですが、正直、これを私が持っていったら駄目だと思いますと言うことも多いんですよ。大変なのはわかりますが、ご家族としてお持ちくださいというふうに、あえて言う場面もあるんですが、寄附というと聞こえはいいんですけど面倒くさいから全部寄附しちゃえとかと考える人も出てきますのでちょっと線引きが非常に難しいとは思いますが、文化財というのはちゃんと理由があって文化財に指定されているのでそういったものを次の代に、前の代の人はずごく大事に保管して維持していたというのがあるんですけど、代がわりしておざなりにされているというのもあると思います。管理に関して案内は教育委員会の方から毎年来てはいるのですが、それ以外の周知というところでも大事なものだよということを、今いろんなものに興味がある人が多いですし、マニアにはたまらないものかもしれないので、そういったものをいかに保存していくかということを十分に今までやられてると思うのですが、もう一步踏み込んだ何かをご検討いただければと思いますので、よろしくをお願いします。
生涯学習課主幹兼文化財振興班長	今年度、生涯学習課の事業で鹿角市のデジタルアーカイブ、要するにデジタルでインターネット上で見せますよというのを、鹿角市の市史を始めとして、資料編などを今構築している最中でございます。来年度以降、先人顕彰館の文化財とか、順次デジタル化していきますので、例えばご家族で文化財を持ってあったりした方につきましては、例えば、デジタルを使って、どういうものがあるのかというところを見ていただいて、うちの方に似たものがある、重要なんだなというきっかけになっていただければいいなどは思いますし、もし本当に重要なものであれば、先ほど言ったとおり鹿角市の方に寄附していただければ、我々の方でもさらにデジタル化して、全国の方々に見ていただく機会もできますので、そういった取り組みも始めていきたいとは思っております。
和田教育委員	よろしくをお願いします。
生涯学習課長	すいません、ちょっと付け加えさせていただくんですけども、持ち込んでいただいたものについては、学芸員がおりますので、学芸員が専門機関の方と連絡を取って、どのくらい重要なものかというの見極めますし、その他にも調査事業なども進めていく予定としておりますので、そういったものとあわせながら推進してまいりたいと思っております。

和田教育委員	調査事業の中で、今までにないものが見つかることもありますので、特に私調査してもらった側なんです、芦名神社の絵馬というのは133点文化財登録されてるんですがいざ調べてみたら600点以上出てきて、二つ並べたときに片や文化財、片やただの絵馬ですが、何が違うんだというようなものも多数ありましたし、また新たに出てくることもあるかと思いますので、そういった調査の方ぜひ大切にいただければと思います。よろしくお願ひします。
笹本市長	他にございますでしょうか。 そうしましたら、ないようですので第4次鹿角市スポーツ推進計画骨子案について説明をお願いします。
スポーツ振興課長	<p>スポーツ振興課の古田です。資料6をお願いします。スポーツの推進につきましては、鹿角市教育大綱（案）のスポーツの推進に関する基本方針を踏まえ、新たに策定するスポーツ推進計画の基本理念を「スポーツでつながるまち かづの」としたいと考えております。また、基本理念を踏まえたまちづくりを推進していくために、具体的な「つながり」について3項目を掲げ、基本目標として据えるとともに、基本目標に基づいたそれぞれの施策においては、重点的に取り組むべき事項を示し、目標の達成を目指してまいります。</p> <p>初めに、基本目標1の「スポーツで誰もが健康生活につながる」では、スポーツによる身体活動を通じ、性別や世代、地域、障がいの有無に関わらず、市民の誰もが健康な心身を手に入れ、日々の生活が充実した状態となることを目指すとともに、市民がスポーツに親しみたいと思ったときに、いつでもスポーツに取り組めるように、施設などの安全で快適な環境整備を計画的に進めてまいりたいと考えております。このため、施策につきましては、ジュニア期のスポーツ機会の確保、誰もが楽しめるスポーツライフの促進、スポーツに親しむ環境の保全、の3項目としております。</p> <p>次に、基本目標2の「スポーツで人とまちがつながる」では、スポーツを介して市民と地域がつながり、ひいては市内の地域と市外の地域がつながり、多様な主体が交流することで地域の活力を創出するとともに、共にスポーツを支える人材の獲得にもつながっていくことを目指してまいりたいと考えております。また、鹿角市スポーツ協会や、スポーツ施設の指定管理者などが有する人的ネットワークや民間のノウハウを生かしたサービスの向上を図ることで、限りある資源の有効活用を進めてまいりたいと考えております。このため、施策につきましては、スポーツによる関係人口の拡大、スポーツ関係団体等中間支援機能の強化、スポーツを支える人材の育成と発掘の3項目としております。</p> <p>最後に、基本目標3の「スポーツでまちの経済とつながる」では、スキーと駅伝競技が盛んな地域の特長や、スポーツを楽しめる環境・資源を最大限に生かして、全国規模スポーツ大会などの定着化を目指すことで、一時的であっても市内の滞留人口を増加させる機会を生み出し、消費活動の拡大を図ってまいりたいと考えております。また、スポーツ大会や合宿のほかに、スポーツに関係するイベントや会議、研修会などについても地域経済に寄与する一面があるため、有益性を見極めながら、積極的に誘致を進めてまいりたいと考えております。このため、施策につきましては、地域スポーツのブランド力の強化、スキー大会の聖地づくりの推進、スポーツコンベンションの誘致の3項目としております。説明は以上です。</p>
笹本市長	はい、ありがとうございます。委員の皆様からご意見ご質問等がございましたらご発言をお願いいたします。はい、吉田委員。
吉田教育委員	はい。スポーツを支える人材の育成と発掘、スポーツ大会における役員の育成も重要ではないかなというふうに思います。スキー大会のみならず陸上大会などにおいては、

	<p>各学校の先生方であったり市役所職員の方に頼っているところが大きいと思いますが、どうかして市民の方から協力を仰ぐであるとか、例えば高校生ボランティアを受け入れることはできないかなという思いはありますが、そういった結び付けと、大会をどんどん誘致することはもちろん大事なんですけれども、支える人材をいかに育てていくかというところにも重きを置いていただきたいなというふうに思います。</p>
スポーツ振興課政策監	<p>はい。夏から冬にかけて各種大会ありますけれども、関係する競技団体はもちろんのこと支えるということでボランティアの方々というのもあると思っております。競技団体の方では高齢化が進んできたりというようなことで対応できない競技団体もありますので、そこら辺はスポーツ協会等としまして、若い人たちの確保を進めていければというふうに思っております。またボランティア等につきましては、学校、大きい大会になりますと、高校生ボランティアそれから中学校の大会等では、中学生がスタッフとしてもご協力をいただいておりますけれども、スキーに関してはテスト期間中になったりというようなスケジュール的な問題にもなっておりますので、学校等とも話をしながら進めていかなければならないのかなというふうに思っておりますので、できるだけ関係する方々にはご協力をいただきながらということで進めていければというふうに考えております。以上です。</p>
笹本市長	<p>他にございませんか。</p> <p>では、ないようですので、これで意見交換を終了したいと思います。</p> <p>次に、5. その他でありますけれども、何かございませんでしょうか。ご自由にご発言いただければと思います。</p> <p>では、ご意見ないようですのでこれで終了したいと思います。本日協議が整いました教育大綱及び重点施策につきましては、市と教育委員会が一丸となって、さらなる充実を図り進めてまいりたいと考えておりますので、教育委員の皆様には、引き続き、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。</p> <p>以上を持ちまして、鹿角市総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>

(午前11時59分閉会宣言)